



三重大学に納入した MOCVD 装置

05年度売上高5億円を計画

京都市内に新工場を建設

●エピクレスト

(株)エピクレスト(京都府 亀岡市篠町王手上下牧三二一六、☎〇七七一一二九一四六六六、前野弘志社長)は、二〇〇五年度(〇六年五月期)に前期比四八%増の売上高五億円を計画している。MOCVD、MBE装置の受注が好調で、光セルを用いた新システムも開発中。京都市内に新工場の建設も決定し、さらなる事業拡大を図る。

同社は、日新電機の事業部門を前身として二〇〇〇

年六月に設立された装置ベンチャーで、MOCVDとMBE両方を手がけている。Kセルや制御電源などの部材、メンテナンスや改造・移設などのサービスも提供。研究開発や小規模量産など特殊分野に強みを持ち、MOCVD・MBEあわせて累計一〇〇台以上の出荷実績がある。

〇四年度は九台を出荷し、売上高三億三七〇〇万円を記録した。MBEではZnOの研究者が増え、M

OVCVDはGaNを用いたレーザーやLED、IC開発への引き合いが拡大。実績として、三重大学に納入したMOCVDはAlGaNのエピ成長に利用され、良好な結果を得ている。独自のシミュレーション技術でノズル配置や形状を最適化し、減圧・高温などのプロセス性能を高めた。開発成果を今後の装置開発にフィードバックする。

豊橋技科大では、〇三年に納入したマルチチャンバーMBEに次いで、MOCVDを納入。両装置をロードロックで連結し、STMもつないだMBE/MOCVD真空一貫システムを構築。Si基板上にGaNPを成長させる文科省プロジェクトに活用されている。

〇五年度は、現在のことろMBE/MOCVD各三台、VCSSEL用酸化炉一台を製作中。酸化炉では、世界初の酸化エンドポイントモニターを共同開発中で、基本原理を確立した。酸化の進行を数μm単位で光学

的に検知できるシステムで、今秋までにソフトウェアの開発を終え、下期から本格販売を開始する予定。また、MBE用光セルの開発をほぼ完了し、特性を確認中。温度変化を柔軟かつスピーディにできる急速変調MBEシステムとして商品化を目指す。そのほか、触媒式のアンモニア排ガス処理装置も納入実績二台、製作中一台と売り上げに貢献し始めた。「今期もトータルで約一五台の受注が見込める」(前野社長)。

事業拡大に伴い、京都市南区上鳥羽中河原五一に新工場兼事業所を新設する。規模は、敷地面積四五〇㎡、S造り二階建て延べ約五七〇㎡で、一階を工場、二階を事務所として活用。現在の亀岡事業所をすべて移転し、スペースを倍増、生産能力を三倍に高める。一二月半ばに竣工し、一二月から業務を開始する。

投資額は一億五〇〇〇万円を見込んでおり、京都市から交付された企業立地促

進助成制度の補助金などを充てる。「協力工場が近くにあるため利便性が高まる。大学などの共同研究をさらに活発化したい」(前野社長)としている。